

4 徳島県立文学書道館【26,420千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親まれる施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【1,670千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	第23回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。</p> <p>応募締切:9月30日(火)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:令和8年2月11日(水・祝)</p>	1,670,000
	小計		1,670,000

(2) 年鑑編集・刊行事業【350千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	研究紀要「水脈」22号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部 販売価格:無料</p>	350,000
	小計		350,000

(3) 教育普及育成事業【5,334千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学講座 小説創作講座	<p>現代小説の実際を熟知し、大学等で創作活動も行うエキスパートを講師に招き、小説を書くことの楽しさと具体的なノウハウを学ぶ。令和7年度も引き続き創作講座を開講し、徳島県における芸術文化のさらなる浸透を図る。</p> <p>日時:令和7年5月～11月(全4回) 会場:講座室</p>	550,000
2	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの4人の芸術家・研究者に専門分野の話をしていただき、芸術・文化への関心を深めてもらう。</p> <p>日時:令和7年6月～9月(全4回) 会場:講座室</p>	620,000
3	第5回 原爆朗読劇 「夏の雲は忘れない」	<p>原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」を朗読サークルに所属するメンバーと鳴門教育大学附属小学校の児童たちが上演する。朗読、スライド投影、ピアノ演奏を融合させながら、平和のメッセージを届ける。</p> <p>日時:令和7年8月9日(土) 会場:ギャラリー</p>	500,000

	事業名	概要	金額(円)
4	第24回言の葉朗読会	朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。 日時: 令和7年9月 会場: 講座室	10,000
5	秋の文学講演会 I・II	第一線で活躍している作家、詩人、歌人、俳人などを招いて、これまでの歩み、自作について、創作の方法などのテーマで話してもらい、文学と芸術、世界と人間の在り方について理解を深める。 日時: 令和7年10月～11月(全2回) 会場: ギャラリー	500,000
6	文学講座 文学から見た人形浄瑠璃	世界に誇る伝統芸能として現在まで受け継がれている浄瑠璃を文学の視点から検証する。最終回では、人形浄瑠璃を鑑賞し、講座の集大成とする。 日時: 令和8年1月～3月(全3回) 会場: 講座室・ギャラリー	731,000
7	書道講座 現代書家による席上揮毫	美術館などで書道作品を鑑賞する機会はあるけれども、書家が揮毫する様子を見る機会は少ない。書道界の第一線で活躍している書家を招き、席上揮毫のほか、揮毫作品の制作意図や技術的なこと、書に対する自身の考え、書道道具へのこだわりなどを語ってもらう。講座終了後にロビーで揮毫作品展を開催する。 日時: 令和7年7月27日(日) 会場: ロビーまたはギャラリー	330,000
8	書道講座 書の鑑賞	書の鑑賞については、「文字が読めないから難しい」「芸術的な作品の良さが分からない」などの声が聞かれる。本講座では、著名な書の専門家を講師に招き、幅広い年代の人にわかりやすく書の見方を解説し、書の魅力を知ってもらい、鑑賞を気軽に楽しむ人を増やす。 日時: 令和7年8月30日(土) 会場: ギャラリー	182,000
9	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、好きな漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。 日時: 令和8年1月10日(土) 会場: 講座室・実習室	45,000
10	書道講座 書道講演会	書の専門家、評論家、美術館学芸員、書や筆・墨・硯・紙に関する本の著者、話題の人などを講師に招く。 日時: 令和8年1月18日(日) 会場: ギャラリー	182,000

	事業名	概要	金額(円)
11	書道講座 書道実技講座	書道技法、篆刻、料紙づくり、表装、水墨画など書に関わる専門的な実技講座。書の技術の向上を図り、書道愛好家を増やしたい。作品は当館ロビーに展示する。 日時:令和8年2月～3月(全3回) 会場:実習室	199,000
12	ことのはロビーコンサート	文学書道館に対する「敷居が高そう」「入りづらい」などのイメージを払拭し、気軽に音楽と文学・書道のつながりを楽しんでもらう。各回に招く演奏者には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲などをプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独自性も出す。 日時:令和7年5月～令和8年3月(全6回) 会場:ロビー	1,485,000
	小計		5,334,000

(4) 展示事業 【19,066千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介する。京都・嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	—
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、企画展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	—
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行う。 期間:通年 会場:収蔵展示室	—
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	—

	事業名	概要	金額(円)
5	文学特別展 戦後80年 寂聴と戦争 (特別展示事業)	瀬戸内寂聴が経験した戦時下の日常、徳島大空襲での母の死など「瀬戸内晴美／寂聴にとっての戦争」を紹介するとともに、それらが小説家・瀬戸内寂聴の形成にどのように関わったかを概観する。 期間:令和7年4月8日(火)～5月25日(日) 43日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	1,800,000
6	書道特別展 書の魔術師 殿村藍田 (特別展示事業)	書壇きってのテクニシャンとうたわれた書家・殿村藍田は、叙情性あふれる華麗な作品を発表し続けた。独特の美意識とバランス感覚の上に、高度な技術を駆使して表現した作品は、漢字、かな、絵の広範に及んでいる。藍田の魅力を存分に味わえる展覧会を開催する。 期間:令和7年6月14日(土)～8月3日(日) 44日間 会場:特別展示室・ギャラリー・書道美術常設展示室	3,723,000
7	文学特別展 青春の詩歌 (特別展示事業)	2014年に日本近代文学館が開催した「青春の詩歌」をもとに構成し、与謝野晶子、斎藤茂吉、島崎藤村など近代文学を代表する作家から、現在活躍中の歌人、俳人、詩人にいたるまで、それぞれの時代で歌われた青春を直筆の色紙や原稿を通して紹介する。また、徳島ゆかりの作家による作品も取り上げ、文学をより身近に感じてもらう。 期間:令和7年8月8日(金)～9月23日(火・祝) 41日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	3,246,000
8	書道特別展 高木厚人ー仮名で景色を創る (特別展示事業)	現代書壇の第一線で活躍中の書家・高木厚人は、師・杉岡華邨のかな書風を基盤としつつ、書による自己表現を目指して数々の仮名作品を発表している。本展では、これまでの代表作や「源氏物語」で詠まれた和歌など、高木氏の美しいかな作品を紹介する。 期間:令和7年10月4日(土)～11月16日(日) 38日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	4,237,000
9	文学特別展 鳴門を描いた文学 (特別展示事業)	豪快に渦巻く鳴門海峡、一番札所・霊山寺、ベートーベンの「第九」日本初演の地・板東俘虜収容所…。鳴門の雄大な自然や歴史・文化遺産が著名な作家や詩人、歌人、俳人たちによって、どのように描かれてきたかを紹介する。 期間:令和7年12月12日(金)～令和8年2月11日(水・祝) 46日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,643,000
10	書道特別展 小坂奇石 ベストセレクション 併催 「奇石の言葉を書く」選抜書家作品展 (特別展示事業)	徳島ゆかりの小坂奇石は、独自の書風を確立した昭和時代を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品を中心に約500点を収蔵しており、毎年テーマを変えて特別展を開催している。今回は、館蔵品から優品約30点を選んで展示する。また、徳島県内で活躍中の書家が奇石の言葉を揮毫した作品展を併催する。 期間:令和8年2月15日(日)～3月22日(日) 31日間 会場:特別展示室・ギャラリー・書道美術常設展示室	1,802,000

	事業名	概要	金額(円)
11	文学企画展 作家たちが見た万博 (企画展示事業)	これまで世界各地で開催されてきた万博。福沢諭吉、夏目漱石、手塚治虫、小松左京、富士正晴、瀬戸内寂聴ら作家たちも実際に会場を訪れたり、企画に携わったりしながら、その様子を日記や小説、随筆などに書きとめた。関西万博の開催に合わせて、彼らが残した記録から当時の万博を振り返る。 期間: 令和7年6月28日(土)～9月23日(火・祝) 76日間 会場: 文学常設展示室	500,000
12	書道企画展 中林梧竹展－自作の漢詩 (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね“明治の三筆、に挙げられる書家である。当館では、梧竹を支援し、梧竹の作品を収集した海老塚的伝氏から徳島県に寄贈された傑作を中心に約300点を収蔵しており、毎年テーマを変えて梧竹の作品を紹介している。今回は梧竹が詠んだ漢詩や詩句を題材にした作品を展示する。漢詩の内容を味わいながら、梧竹作品の鑑賞を深めてもらう。 期間: 令和7年8月6日(火)～9月28日(日) 48日間 会場: 書道美術常設展示室	296,000
13	書道企画展 第10回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点以内)と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、優秀賞受賞者90人を表彰する。 期間: 令和7年11月29日(土)～12月7日(日) 8日間 会場: ギャラリー	819,000
	小計		19,066,000
	合計		26,420,000